

2020年第2回 IEEE Japan Council 理事会議事録

日 時：2020年7月31日(金) 14:00～17:43

場 所：Web 会議

出席者: 尾上 Chair、佐波 Vice Chair、滝嶋 Secretary、羽渕 Treasurer、大鐘札幌支部 Chair、佐藤仙台支部 Chair、加藤信越支部 Chair、徳田東京支部 Chair、野田 JC WIE Chair、吉田東京支部理事、穂積名古屋支部 Chair、杉江関西支部 Chair、梅田関西支部 Vice Chair、野口四国支部 Chair、大久保広島支部 Chair、谷口福岡支部 Chair、福田 COC Chair、大野 SAC Vice Chair、桑原 AC Chair、山田 IPC Chair、津田 Past Chair、杉江 Past Secretary 兼 NC Chair、眞田 Past Treasurer、白川 HC Chair、重松 LRSC 委員、栗本 MD Coordinator、竹村 YP Coordinator、青山 LMAG Coordinator、福田 IEEE President、南 MGA ARC Past Chair、西原 R10 Director、橋本 R10 Secretary、高村 R10 Treasurer、矢野 R10 WIE Committee Chair、鈴木 R10 YPC Chair、小菅 2020 IEEE Technical Activities Vice President、百武オブザーバ、梶川(明)オブザーバ、千住オブザーバ、Danish オブザーバ、仲泊オブザーバ、事務局 セクレタリアシスタント、書記

議題：

1. 前回理事会議事録の確認 (審議)
2. 2021/2022 年役員選出について (審議)
3. 2020 年中間会計報告 (審議)
4. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 4-1 Chapter Operations Committee (議論)
 - 4-2 Student Activities Committee (議論)
 - 4-3 Awards Committee
 - 4-4 Industry Promotion Committee (議論/審議)
5. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
 - 5-1 Long Range Strategy Committee
 - 5-2 History Committee
6. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告
 - 6-1 Women in Engineering
7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
 - 7-1 MD
 - 7-2 YP (審議)

7-3 LMAG

8. 各支部 2020 年前回理事会以降の活動報告

- 8-1 札幌支部
- 8-2 仙台支部
- 8-3 信越支部
- 8-4 東京支部
- 8-5 名古屋支部
- 8-6 関西支部
- 8-7 四国支部
- 8-8 広島支部 (議論/審議)
- 8-9 福岡支部

9. その他

- 9-1 Educational Activities について (審議)
- 9-2 TENCON2020 について
- 9-3 MGA ARC の活動報告
- 9-4 Fellow/Senior/Awards 獲得等に関するアンケート結果 (審議)
- 9-5 Japan Council の活動紹介広報に関するインタビューについて (審議)
- 9-6 メール配信のガイドラインについて (議論)

[参考] Region 10 からのメール連絡一覧

[参考] 2020 IEEE Sections Congress Official Statement

議事：

0. Chair ご挨拶

Chair より開会のご挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認 (審議) 【審議→承認】

Secretary より確認があり、異議なく承認された。

2. 2021/2022 年役員選出について (審議) 【審議→承認】

NC Chair より候補者推薦の経緯説明、Chair、Vice Chair、Secretary、Treasurer それぞれ 1 名の候補者紹介があり、異議なく承認された。

3. 2020 年中間会計報告 (審議) 【審議→承認】

Treasurer より報告があった。4 月からほとんど動きがない。続いて変更予算案が提案され、異議なく承認された。

4. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

4-1 Chapter Operations Committee (議論)

COC Chairより、Chapter支援費上限額引き上げ、申請書オンライン化、Section配下移行の説明会の3点の説明があった。

Secretaryより、Chapter支援費上限額引き上げについては運用上調整の範囲と考えられるのでCOC提案でよいと考える、と説明があり承認された。COC Chairより、上限額の引き上げにより今までできなかった企画ができるものと考えている、また、Awardに関しては以前からの一貫性を保つため変更しないと、補足説明があった。

申請書オンライン化の初期費用上限、維持費用について、Past Chairより、手続きごとに開発するとコスト高になる、JC全体で自動化の方向感をまず決めてはどうか、と発言があり、COC Chairより、将来的にそうしたい、JCの中でWGを作ってやるのがよい、と発言があった。Secretaryより、初期の検討では全体設計の検討から行ったが、具体化していて費用対効果の高いCOCから着手した経緯がある、と発言があった。COC Chairより、JCのIT化についてはJCとして考えていく必要がある、まずはChapter支援費から着手し、並行して拡張を見据えて進めていきたい、と発言があり、MGA ARC Past Chairより、見通しがあれば賛成と、発言があった。COC Chairより、来年4月スタートの場合は9月上旬までに契約をしたい、8月中旬に方向性を決めたい、と発言があった。Secretaryより、常時情報共有を進めながらこの方向で進めることについて確認があり承認された。

Secretaryより、Section配下移行の説明会について、online会議等を活用して今の体制で道筋をつけ、次の体制に引き継ぐのがよいと思う、具体的な進め方を検討し、関係者に連絡を進めていく、と発言があった。

4-2 Student Activities Committee (議論)

SAC Vice Chairより、報告があった。Student Branch Leadership Training Workshopは5月に関西大学で開催を予定していたが、COVID-19の影響で6月4日にonline開催とした。SB会員数について、Probationの可能性の高いSBに対してはJC SACから注意喚起を継続する、各支部SACでもご留意頂きたいと依頼があった。どのように活動を活性化させるか、どのようにSBを維持していくか、の2点を議論したいことが述べられた。

Secretaryより、SBの維持は連絡を取れることがまず重要である、ガイドライン・基準を設けて基準を満たさないSBは閉じ、活発に活動しているSBを支援することも考えられる、と発言があった。SAC Vice Chairより、ボーダーのSBもあるため、現在はProbationにならないよう鋭意努めている、と発言があった。

SAC Vice Chairより、活動の活性化について、年齢の近いYP全体と協力できればと考えている、と発言があり、YP Coordinatorより、学生を巻き込んだイベント開催を検討している、今後も検討していきたい、Probationについては他の施策も必要と考えているのでSAC Vice Chairに個別相談させて欲しいと、発言があった。

4-3 Awards Committee

Award Committee Chairより、報告があった。現在、Medal、Recognition、Technical Field Awards (TFA)の各受賞状況を更新した。TFAの日本人受賞者は、2件、4名だった。今後、JC WebのAward受賞者関連の情報を更新する、年1回のJC AC会合を10月頃に開催する。

4-4 Industry Promotion Committee (議論/審議) 【審議→継続検討】

IPC Chairより、2020年の活動とIPCの位置付け議論について報告があった。IPC会議の議題が多岐にわたり、企業からの参加者には要望を伝えることが多くなり、逆に要望を吸い上げる活動が希薄となっていること、結果的に重要な施策や新しい取組みの実行が思うように進まないこと、などの課題認識に基づき、IPCの運営について検討を行っていることが報告された。

続いて、Secretaryより、シニア昇格記念メダルの説明があった。シニア会員増強、シニア昇格を機会にIEEEでの活動継続への意欲を再意識してもらうための施策として、JCにて各支部共通デザインの記念メダルを制作し、活用する提案があり、本理事会での議論を踏まえて継続検討となった。

関西支部での対応について、Secretaryより、関西支部が二つのメダルを持つことについて意見照会があり、関西支部Chairより、デザインが決まり次第教えて欲しい、支部で議論したい、と回答があった。MGAARC Past Chairより、Fellow/Senior/Awards増強検討チームで合わせて検討するのが良いと感じた、個人的にはシニア昇格メダルの製作・贈呈には反対で、このような意見も含めて慎重に進めて頂きたい、と発言があった。Secretaryより、本施策は支部の方々が上手く活用できる仕組みを作っていくことが重要であるので、支部の方々の意見を頂きながら検討チームを中心に継続検討する、と発言があった。

5. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告

5-1 Long Range Strategy Committee

LRSC Chair より、長期課題の検討として、社会人をターゲットにした活動の土台作りのためにすべきことに関する議論や、これにはJCやJapan Officeとの連携が必要という議論、また、幹事会社制度の是非の議論があった、と説明があった。

5-2 History Committee

白川History Committee Chairより、Milestoneの状況説明などがあった。10月2日に福岡支部(長崎)にてHC委員会の開催を予定する。

6. Affinity Group 前回理事会以降の活動報告

6-1 Women in Engineering

野田WIE Chairより、報告があった。役員会議を3回開催し、東京・信越ジョイントWIE設立、他支部WIE設立を中心に議論した。WIE Online Gatheringを5月に日本全支部WIEで共

催、日本版Online Gatheringを6月に主催した。東京・信越支部WIE設立は7月22日にPetitionを達成した。年内に設立記念イベントを予定する。年内設立に向け、福岡、広島、四国支部合同で準備をしている。東京・信越ジョイント支部WIEの設立を受け、ほとんどのWIE会員の帰属が決定した。残る会員の帰属が決まればJC WIEは解散する。9月に予定のIEEE Engineer SpotlightにてWIEセッションを企画中、登壇候補者へ打診している。

7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

7-1 MD

MD Coordinatorより、報告があった。第1回MDC会議を4月にonline開催した。2020年の支部MDCメンバを確認し、2020年の計画や各支部のMD活動状況等を共有した。

7-2 YP (審議) 【審議→承認】

YP Coordinatorより、説明があった。10月17日開催予定のJapan SYWL Workshopの会場が、「広島市まちづくり市民交流プラザ」に決定し、その会場費支出について、承認された。

IEEE Engineering Spotlightをonline共催したこと、オンラインアイデア実装コンテストを東京YP主催で開催、今後審査を予定することが報告された。

IEEE YESIST12 2020が10月にonlineで開催されることになり、アイデア実装コンテストの応募者にIEEE YESIST12への投稿を勧奨する。12thキャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストの応募を開始した。

R10 WIE Committee Chairより、R10 SYWL Congress2020について、9月にonlineのイベントを計画中、COVID-19の状況が改善した場合は12月にタイで開催できるか探っている、と補足があった。

7-3 LMAG

LMAG Coordinatorより、口頭報告があった。LMAG-Tokyoでは支部会員にニュースレターを配付している。内容が良いため、A4判1枚程度に調整の上、英語にしてR10向けに配付して頂きたい、プレゼンスを高めたいと考えている。また、LMAG全体のニュースレターもあり、これに情報を入力できるようになればプレゼンス向上につながると考えている。Secretaryより、LMAGのある支部にて情報発信の方法について検討頂きたいと、依頼があった。Treasurerより、東京支部LMAGのニュースレターは英語版がHPにある、と紹介があった。

8. 各支部 2020 年前回理事会以降の活動報告

8-1 札幌支部

支部Chairより、報告があった。COVID-19の影響で講演会の開催が遅くなっている。Secretaryより、Sapporo Section YP設立記念イベントは開催済みか、今後予定か、と質問があり、支部Chairより、未確定だが地区連合大会でSB交流会があり、そこでYPも交えて検討す

る、と回答があった。

8-2 仙台支部

支部Chairより、報告があった。Affinity Groupの活動が活発である。WIEは8月に電気関係学会東北支部連合大会にて企画セッションを、10月に設立3周年記念イベントを予定している。LMAGは9月に講演会を、YPは10月にキックオフイベントを予定している。電気関係学会東北支部連合大会における学生を対象とした英語による論文発表セッションは、Student Sessionが口頭発表を実施しないためAwards授与は今年行わない。

8-3 信越支部

支部Chairより、報告があった。6月に役員会をonline開催した。電子情報通信学会・信越支部大会と電気学会・東京支部新潟支所大会においてIEEEセッションの開催と学生表彰を予定している。SB活動として電子情報通信学会信越支部大会でSB Session(ポスター)と研究発表交流を予定、優秀発表賞等の授与を検討している。

8-4 東京支部

支部Chairより、報告があった。MD活動として、各組織内で機動的にシニアメンバー昇格奨励活動を促進するキーパーソンの選定を実施した。会員維持施策として在籍年数バッジの製作と配付を検討した。東京支部講演会を6月と7月に各1回開催、7月はonlineとon-siteのハイブリッド開催だった。Milestone NEC 2件はまとめて12月15日NEC本社にて贈呈式等の開催を予定する。恒例の新Fellow表彰式と懇親会は延期した。IEEE Tokyo Bulletin No.122とNo.123を発行した。COVID-19の影響等により、支部・委員会・AG等で年間計画と予算を修正した。支出総額は当初予算とほぼ同じだが、集合型のイベントに代わりMD活動等に注力する。

8-5 名古屋支部

支部Chairより、報告があった。授賞活動を進めたが、電気・情報関係学会北陸支部連合大会でのIEEE名古屋支部学生奨励賞はonline開催のため選考を見送った。2件の支部連合大会はともにonline開催を予定している。Secretaryより、WIE設立イベントとMG Award授与式は今後開催か、と質問があり、支部Chairより、WIE設立イベントは実施済みである、と回答があった。

8-6 関西支部

支部Chairより、報告があった。第3回理事会をメール審議で、第4回理事会をonlineで実施した。2020年YP賞と第17回学生研究奨励賞をウェブページとメーリングリスト配信にて募集開始した。MAW2020およびSYWL Workshopが現地開催の場合にはその旅費を支援することとした。IEEEシニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会を9月から12月に延期して、博士課

程のキャリアについて語る会を9月に開催予定する。

8-7 四国支部

支部Chairより、報告があった。令和2年度連合大会を9月26日に愛媛大にて開催予定である。COVID-19の影響で論文集のみ発行し、現地で開催しない場合がある。サイバーセキュリティシンポジウム道後2020は9月(毎年3月)にonline開催を予定する。国際会議TALE2020は高松市(かがわ国際会議場)共催からonline共催に変更になった。Secretaryより、サイバーセキュリティシンポジウム道後2020はonlineの可能性もあるか、と質問があり、支部Chairより、先日online開催になった、と回答があった。

8-8 広島支部 (議論/審議) 【審議→承認】

支部Chairより、説明があった。IEEE MAW 2020 in HIROSHIMAの参加費を全員無料にすることについて、異議なく承認された。IEEEを通じたインダストリとアカデミアの交流の場を提供するMAWの趣旨を鑑みて、会場はハイブリッドを検討していること、オープニングにJCから来賓挨拶を招待したいと考えており、今後個別に相談させて欲しいこと、などの説明があった。また、Japan SYWL Workshopの現地準備状況が報告された。

8-9 福岡支部

支部Chairより、報告があった。7月に理事会をonline開催し、福岡支部学生研究奨励賞を授与すること等について議論した。COVID-19の影響で研究会、講演会の予定は例年より少ない。2020年度(第73回)電気・情報関係学会九州支部連合大会はonline開催となった。

9. その他

9-1 Educational Activities について (審議) 【審議→承認】

Secretaryより、説明があった。JC及び各支部においてEducational Activities(EA)を組織的かつ継続的に推進する、そのためJC及び各支部においてEA担当者をアサインすることが審議され、異議なく承認された。

Region 10 Directorより、できることから着手して欲しい、現在ボランティアと進めているが、このような方々とも協力し合っていければと考える、”Try Engineering”サイトなど言語ローカライズも進められればと考える、日本のメンバに役立つことを進めて欲しい、と発言があった。R10 Secretaryより、中高生へのよいリーチになる、lifelongを志向したこれまでにない価値提供につながるのをお願いしたい、と発言があった。

9-2 TENCON2020 について

Past Secretaryより、IEEE Region 10 Special Industry Trackの説明があった。前回理事会での説明以降トピックの選定等が進捗した。

Chair より、会議全体について全期間 online 開催になったこと、330 件程度の論文投稿があったこと、過去の開催よりも投稿数が少ないこと、参加費は見直しを考えていること、が述べられた。

9-3 MGA ARC の活動報告

MGA ARC Past Chair より、資料について質問があればいただきたいと発言があった。Secretary より、傾向や今後の対策があればお願いしたい、と発言があり、MGA ARC Past Chair より、今後極力そうした情報も提供させていただきたいと、発言があった。

9-4 Fellow/Senior/Awards 獲得等に関するアンケート結果 (審議) 【審議→承認】

Secretary より、集計結果の説明があった。結果を受け、Fellow/Senior/Awards 増強のための検討チームを構築し、系統的、継続的に検討を実施する提案がなされた。提案について、異議なく承認された。

9-5 Japan Council の活動紹介広報に関するインタビューについて (審議) 【審議→承認】

Secretary より、会員獲得・維持強化のため、ビデオとパンフレットのメディアミックス型の広報コンテンツを制作する提案があり、異議なく承認された。コンテンツはライフステージの変化や属性(学生→社会人、研究者→管理職、家庭・業務両立女性、退職後の第二の人生など)に応じている。

Region 10 Director より、Japan Office のパンフレットにインタビュー記事があるが、これとの関係はどうなっているか、と質問があり、Secretary より、属性に応じた特徴アピールを考えている、と回答があった。オブザーバより、今の Japan Office のパンフレットは、一般向けの IEEE の紹介の要素が強いが、これも続けていく、同時に今回制作するコンテンツは属性を配慮できるので、ポケットに入れ替えて属性に応じた柔軟なコンテンツを提供ができる、と発言があった。Secretary より、出来たコンテンツからご覧頂きたいので、コメントがあれば頂きたいと、発言があった。

9-6 メール配信のガイドラインについて (議論)

Secretary より、eNotice によるメール配信の際の注意点を中心とする説明があった。一定の条件下であれば配信希望者が自ら配信可能であること、事務局に配信を依頼する場合には、手順等に注意して欲しいことが説明された。R10 YPC Chair より、SNS の利用についても注意点等共有できるか、と質問があり、Secretary より、今回は eNotice を利用する際のガイドラインである、Social Media については今後の検討である、と回答があった。

[その他]

・ Secretary より、2020 IEEE Sections Congress Official Statement について、現地開催中止、

順延もなく、次回は 2023 年に開催予定であること、が述べられた。

・ MGA ARC Past Chair より、Region 10 からのアナウンスを見たい場合はどうすればよいか、と質問があり、Secretary より、事務局に連絡を頂きたいと、回答があった。

Secretary より、2020 年第 3 回理事会の予定(12 月 11 日機会振興会館)が周知された。

以上